

## 4 身の守り方さまざま

昆虫は常に危険(きけん)にさらされていますので、いろいろな方法で身を守っています。

### ◆【逃(に)げるが一番】

大多数の昆虫は、まず逃げます。足の速さだけでなく、す早く草むらにかくれることも逃げ足の速い部類に入るでしょう。

#### トノサマバッタ



警戒心(けいかいしん)の強いことと、飛ぶ力はバッタ類ではチャンピオンです。いったん飛び立つと20メートルくらい飛び、ときには50メートルくらい飛ぶこともあります。ふだんは背(せ)の低い草の中などにいます。

#### キリギリス



逃げ足が速く、危険(きけん)を感じるとすぐ草むらにかくれてしまいます。



### ◆まるで忍者のよう【擬態(ぎたい=まねる)】

擬態とは、攻撃(こうげき)や自分を守るために、体の色や形をまわりの物に似(に)せること。天敵(てんてき)にねらわれる昆虫は多くの場合、木の葉や小枝などに似せたり、強い虫の姿(すがた)に似せたりして敵をあざむくのです。昆虫の忍者(にんじゃ)ですね。

#### クロコノマチョウ



落ち葉の中で身をひそめています。



#### アケビコノハ



大きなガです。落ち葉に似せています。

#### ホシヒメホウジャク



小型のスズメガです。枯(か)れ葉に似せています。

#### エダナナフシ



カマキリに近い昆虫です。枯れた小枝に似せています。

### ヨモギエダシャク(幼虫)



シャクトリムシと呼ばれる長いイモムシです、突(つ)っ立って枝に似せています。

### ニイニイゼミ



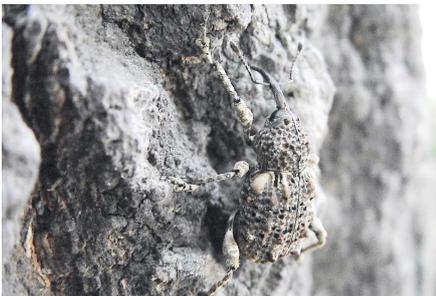
小型のゼミです。木の肌に似せています。

### マメキシタバ



あまり大きくないガです。木の肌に似せています。

### マダラアシゾウムシ



甲虫です。木の肌に似せています。

### ヒメアトスカシバ



ガですが、ハチに似せています。

### アゲハモドキ



ガですが、からだに毒を持つジャコウアゲハ(チョウの一種)に似せています。毒のあるジャコウアゲハは野鳥(やちょう)が食べないからです。名前についでいるモドキというのは「にせもの」という意味です。

### ◆【擬死(ぎし=死んだふり)】

甲虫類の中には危険(きけん)がせまるとあしを縮(ちぢ)め、死んだふりをして木や草葉の上から転がり落ち、落ち葉や草むらなどに身をひそめて、敵から逃(のが)れるものがあります。

「死んだふり」は擬死といいます。擬死の状態のときは、通常はあしをこわばらせて、あお向けになっています。ノギリクワガタ、オジロアシナガゾウムシ、コメツキムシなどでよく見られます。

### オジロアシナガゾウムシ



写真は通常の姿ですが、危険だと気づくとあしを縮めてころげ落ち、死んだふりをして姿をくらましてしまいます。

オジロアシナガゾウムシはクズの葉やつるの上でよく見られます。鳥の糞(ふん)の色に擬態(ぎたい)することで有名です。



◆【保護色(色でくまます)】

バッタ類、キリギリス類の中には同じ種類なのに緑色のもの、褐色(かっしょく)のもの、その中間的な色のものが少なくありません。身を守るための保護色(ほごしょく)で、緑色型が青菜の上に、褐色型が枯葉や土の上にいると目立たなくなります。

ショウリョウバッタ



緑色型



褐色型

クルマバッタ



緑色型



褐色型

! ? 「褐色」とは、黒みを帯びた濃い茶色のことです。麻布を染める前の天然の繊維(生成り=きなり)の色で、例えば、コーヒーの色や日焼けした肌の色などです。褐色の肌といたりしますね。

クビキリギリス(キリギリス類)



緑色型



褐色型

! ? 「保護色」とは、体の色や模様が、生活している場所の背景(はいけい)によく似ていると、敵の目から逃れやすくなります。このように、まわりとよく似た色や模様をしていることを保護色といいます。自分の身を守るのに役立っているのでしょう。

◆【恐(おそ)ろしい姿(すがた)で驚(おど)かす】

アケビコノハ幼虫(ガ)



恐ろしそうな姿(すがた)です。野鳥は目玉様(めだまもよう)をこわがります。



◆【いろいろな保身術】①高温ガス・くさいにおい

高温ガスをあびせたり、くさいにおいを出したりして敵をひるませます。

ミイデラゴミムシ



くさい高温ガス(約100℃)をあびせるので有名で、あびせる方向もコントロールできます。

ヘッピーリムシ(屁放り虫)という別名があります。

チャバネアオカメムシ



たいへんくさいにおいを出します。おおかたのカメムシ類は、くさいにおいを出します。

クロアゲハ幼虫



写真はまだ小さい幼虫です。身の危険(きけん)を感じると頭からピンク色でやわらかく、くさいにおいの角(つの)を出しておどろかせます。

◆②毒針(どくしん)で攻め・毒毛(どくもう)で守る

攻撃(こうげき)する昆虫の代表はハチで、毒針を持つものが多いことが知られています。しかし、狩(か)りバチが獲物(えもの)の虫に麻酔液(ますいえき)を注入(ちゅうにゅう)するとき以外は自分から刺(さ)しにくることはまずありません。毒針を持つのはメスのハチだけです。毒針は産卵管(さんらんかん)が変化したものです。

毒を持って身を守る昆虫もいます。毒毛を持ったガ(成虫・幼虫とも)がよく知られています。ドクガ類、イラガ類の幼虫が有名です。

モンスズメバチ



刺激(しげき)したり、近づきすぎたりしなければ攻撃(こうげき)してくることはまずありません。しかし、攻撃してくるときは集団でおそってきます。大声を上げたり、手をふりまわしたりするとハチを刺激しますので、絶対にしてはいけません。

モンシロドクガ幼虫



毒毛を持っています。毒毛に触れると蕁麻疹(じんましん)のような皮膚炎(ひふえん)を起こし長く続きます。

成虫は小型(24～39mm)で、白いはねに数個の黒い紋のあるガです。紋の数は一定していません。成虫のガにも毒毛がついているので危険です。